

2022 年度事業報告書

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 ISAPH

1. 実施事業の概要

2022 年度の事業は、前年度に引き続き、国際協力事業（東南アジアのラオスにおける母子保健・栄養事業、アフリカのマラウイにおける母子栄養改善事業）、保健人材育成事業、調査研究事業を社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院と協働して実施した。

ラオスにおいては、ラオス中部カムアン県サイブートン郡にて、2020 年 10 月にラオス政府と了解覚書 (MOU) を交わした地域保健事業を継続した。本事業は、JICA 草の根技術協力事業としての食用昆虫の技術普及事業を含む。当該 MOU は、2023 年 9 月に終了予定ではあるが、本年度の成果を受けて、事業の達成状況からカウンターパートらより継続を要請されている。

マラウイでのプロジェクトは 2021 年に続いて、JICA 草の根技術協力事業の実施のための基盤整備に努めた。対象地域および活動内容は、ムジンバ県マニャムラヘルスセンター地域にて引き続き地域の栄養改善に取り組み、5 歳未満児の栄養不良解決のために活動した。

保健人材育成事業では、2020 年度から休止していた現地フィールドスタディを再開、また 2021 年度より導入した、オンラインでのスタディツアーの広報も強化し、参加大学の拡大を図った。

これまで国際協力事業として実施していた調査や研究などの案件を、本年度より、「調査研究事業」として新設した。企業や他団体からの調査業務の受託に加え、大学との共同研究、国内のヘルスニーズに関する調査等を新たに実施。

全ての事業において、助成金・補助金の獲得だけでなく、一般支援者の増加を目指して積極的に活動を PR した。

2 事業計画の詳細

事業名	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施期間 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	受益対象者の 範囲と人数	予算額 (千円)
保健・医療分野の 国際協力事業(1) 「ラオス国母子 保健向上プロジ ェクト(フェーズ 2)」	◆母子保健に関する住民への啓 発活動と妊産婦と乳幼児への健 康支援 ラオス中部のカムアン県サイ ブートン郡にて、母と子の健康 を守るため、①教育啓発活動、② 地域ボランティアの育成、③ラ オス政府と協力した母子保健サ ービスの提供を行う。今年度か ら、旧 3 村に合わせて新 10 村も 対象として地域を拡大する。 ◆村のリボルビングファンド・ システム再構築支援 活動地域における住民による 保健活動の強化のため、村に既 存する基金をリボルビングファ	(A) 2020 年 10 月～ 2023 年 9 月 2024 年 9 月まで 今期延長予定 (B) ラオス国カム アン県サイブ ートン郡 (C) 4 名	サイブートン 郡 45 村人口： 約 27,000 人 対象①旧 3 村： 約 2,700 人 対象②新 10 村： 約 2500 人	4,210

	<p>ンドとして機能するよう支援してきた。2022年度は、本システムを村に移譲することを目標に取り組んだ。</p>			
<p>保健・医療分野の国際協力事業(2) 「ラオス国昆虫養殖技術普及事業」</p>	<p>◆昆虫養殖技術普及支援 これまでに団体が養殖を実施してきたヤシオオオサゾウムシをはじめ、トノサマバッタやエリサンの養殖技術を対象村の住民に指導し、広げてきた。本事業はJICA草の根技術協力事業として実施した。 本事業は技術普及のみの活動・資金構成となっているため、今後、対象の自立支援にかかる活動を拡大して実施する予定。</p>	<p>(A) 2020年12月～ 2023年12月</p> <p>(B)ラオス国カムアン県サイブートン郡(旧3村)</p> <p>(C)2名</p>	<p>3村人口： 約2,700人</p>	<p>5,109</p>
<p>保健・医療分野の国際協力事業(3) 「マラウイ国母と子の地域栄養改善事業」</p>	<p>◆母と子の栄養改善活動 雪の聖母会聖マリア病院と協力し、ムジンバ県マニャムラヘルスセンター地域において、村人を中心とした地域主体の栄養改善活動を実施する。また次の大型事業に発展させるため、関係者とのネットワーク構築、地域の基盤づくりに取り組んだ。</p> <p>◆保健ワーカーの活動拠点建設支援 現地のニーズに応じて、寄付金などを活用して保健ワーカーの活動拠点(建物)を建設する活動。2022年度は特に依頼がなく、建設はなかった。</p>	<p>(A) 2022年4月～ 2023年3月</p> <p>(B) マラウイ国ムジンバ県</p> <p>(C)10名</p>	<p>マニャムラ保健センター管轄地域人口： 約27,000人のうち一部の地域</p>	<p>523</p>
<p>保健・医療分野の教育研修事業(1)</p>	<p>◆現地/オンラインスタディツアー 2022年度より現地スタディツアーを再開。2大学から依頼を受けて実施した(いずれもラオス)。新型コロナウイルス感染症の影響を考え、オンラインによるスタディツアーもPRしたが、実施無し。 事業の認知が低く、PRが課題である。</p> <p>◆インターン受け入れ 邦人・外国人を問わずインターン受け入れを行う。2022年度</p>	<p>(A) 2022年4月～ 2023年3月</p> <p>(B) ラオス</p> <p>(C) 2名</p> <p>随時</p>	<p>スタツア参加者：約20名 ※教員除く</p> <p>5名程度</p>	<p>338</p>

	は計4名を受け入れた。うち2名はラオス事務所でインターンを実施した。			
保健・医療分野の調査研究事業(1)	◆マラウイにおける長崎大学との共同研究事業 マラウイの子どもの栄養不良の背景となる、住民の「食物に対する価値観、考え方」について文化人類学的視点から探求する。 現地住民に対してパイルソートやフォトボイス、質的インタビューを実施した。	(A) 2022年4月～ 2025年3月 (B) マラウイ国 ムジンバ県 (C) 3名	調査参加者： 約100名	1,124
	◆在留外国人のヘルスケア・アクセスに関する調査 福岡県の8万人以上という在留外国人の医療機関へのアクセスに関する課題の調査。 在留外国人と医療機関の間にいるNPO/NGO/CSOを対象として、地域の担い手が在留外国人のヘルスケア・アクセスにどのような役割を果たしているかを調べる。2022年度は、調査準備を行った。	(A) 2022年4月～ 2023年3月 (B) 福岡県全域 (C) 1名	NPO/NGO/CSO 500団体/個人	
	◆国際協力事業に関する現地調査請負 企業やNPOなどが実施する国際協力事業に関連する現地調査業務を請け負う。2022年度は2団体より委託（いずれもマラウイの調査）があった。	随時	随時	

2022 年度収支決算報告

項目	金額	内容
前年度繰越金	16,735,106	
収入	14,929,689	
収入内訳	747,000	会費
	283,260	寄付金
	4,900,000	助成金・補助金
	8,531,517	事業収益(業務委託等)
	467,912	その他
支出	12,422,009	
支出内訳	9,319,289	国際協力事業(ラオス)
	523,474	国際協力事業(マラウイ)
	337,596	教育・研修事業
	1,123,823	調査・研究事業
	976,551	管理部門
	141,276	その他(雑費・法人税等)
収支差	2,507,680	
2022年度末期預金額	19,242,786	

2023 年度予算

項目	金額	内容
前年度繰越金	19,242,786	
収入	12,250,000	
収入内訳	750,000	会費
	300,000	寄付金
	4,200,000	助成金・補助金
	7,000,000	事業収益(業務委託等)
支出	13,700,000	
支出内訳	8,000,000	国際協力事業(ラオス)
	1,500,000	国際協力事業(マラウイ)
	400,000	教育・研修事業
	2,500,000	調査・研究事業
	1,000,000	管理部門
	300,000	その他(雑費・法人税等)
収支差	△ 1,450,000	
2023年度末期残高	17,792,786	

貸借対照表
2023年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	16,543,561		
短期貸付金	200,020		
立替金	669,000		
未収入金	3,301,198		
流動資産合計		20,713,779	
2 固定資産			
有形固定資産			
車両運搬具	7		
固定資産合計		7	
資産合計			20,713,786
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	303,000		
前受金	1,000,000		
未払法人税	141,000		
流動負債合計		1,444,000	
負債合計			1,444,000
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		16,735,106	
当期正味財産増減額		2,534,680	
正味財産合計			19,269,786
負債及び正味財産合計			20,713,786